

## 1 趣 旨

不登校傾向にある児童生徒の活動意欲、コミュニケーション力、自己肯定感の向上と社会的自立を図るため、自然体験や宿泊体験等不登校の状態に応じた多様な体験活動の機会の提供と相談対応を行うとともに年間を通じた居場所を構築する。

(SDGs との関連)



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



15陸の豊かさも守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう

## 2 主 催 大分県教育委員会

## 3 実施期日 令和5年9月16日(土)～17日(日)

## 4 実施場所 大分県立香々地の青少年の家

## 5 参加者数 42名(児童生徒 17名、保護者11名、メンタルフレンド等14名)

## 6 支 援 者 大分大学福祉健康科学部学生(メンタルフレンド)

## 7 日程・プログラム

9月16日(土)		9月17日(日)	
時刻	活 動 内 容	時刻	活 動 内 容
13:00	受 付	6:30	起床、洗面
13:30	出合いのつどい(アイスブレイキング)	7:30	朝 食
14:30	活動1「夷谷で川遊び」	8:40	部屋点検
16:30	のんびりタイム(選択活動)	9:00	のんびりタイム(選択活動)
18:00	夕 食	9:30	活動3「手作りピザ作り」
19:30	活動2「花火を楽しもう」		※昼食は作ったピザをいただきます。
	【保護者懇談会 ～20:30】		
20:30	入浴(メンタルフレンド会議)	12:30	別れのつどい
21:30	就寝準備	13:00	解散
22:00	就 寝		

### ① 出合いのつどい(視聴覚室)

- ・参加者や大学生ボランティア(以下、メンタルフレンドという)、職員等が最初に出会う場として設定した。
- ・受付場所にメンタルフレンドを配置し、参加者を会場まで案内する等、緊張を和らげるための工夫をした。
- ・アイスブレイクとしメンタルフレンドにはキャンプネームの紹介や秋にまつわるエピソードを一人ずつ紹介してもらった。参加者から笑顔も見られるようになり、緊張も少し和らいだ。
- ・参加者数がメンタルフレンド数より多いためメンタルフレンドがマンツーマンで支援することができないことをあらかじめ参加者に伝える等、キャンプの注意事項を確認する時間をもった。



## ② 活動1「川の生き物観察」(竹田川上流夷谷公園周辺)

・手持ち網で魚やカニを捕ったり、川原でのんびりすごしたり、延べ竿で魚釣りなどの活動準備し、子供が自由に選択する活動を企画していたが、現地での降雨と落雷により、ほとんど活動ができなかったが、希望者は降雨の中、川において、溪流の雰囲気を感じることができた。

## ③ 「のんびりタイム」(レクリエーション室・創作室・談話室・部屋)

・自己選択・自己決定をねらいとした自由選択活動として「のんびりタイム」を設定した。  
・メンタルフレンドが参加者に意思を確認、または選択肢を提示し、一緒にバトミントンや卓球、バスケット、オセロ、カードゲームなどの遊びを行った。  
・参加者が17名と多かったことやメンタルフレンドが2名の参加者を担当していたこともあり、参加者同士と一緒に活動する場面が多く見られ、横の繋がりをつくるきっかけになる時間となった。



## ④ 「保護者懇談会」(談話室)

・保護者11名、施設職員2名、アドバイザー2名の計15名の参加で実施。  
・子どもの家庭での様子や悩んでいることなどが語られ、思いを共有する場となった。



## ⑤ 活動2「花火活動」

・科学実験教室で炎色反応の実験を行い、花火の原理の説明した後、手持ち花火を中心に行った。友達と花火をしたことがない参加者も多く、貴重体験になり、思いで深い活動となった。

## ⑥ 「メンタルフレンド会議」(談話室)

・1日の子どもたちの様子や、メンタルフレンドの振り返り、情報交換の場として設定した。  
・課題や困っていること、子供の成長が見られた点など、様々な視点で子どもの様子を出し合い共有することができた。  
・職員や指導教授から翌日の活動に活かすことができるよう指導や助言を行った。

## ⑦ 活動3「手作りピザを作り」

・生地から手作りのピザをオリジナルのドラム缶で焼いた。  
・生地をこねて、ピザの形をつくる作業は難易度が高いため、メンタルフレンド力を借りながら一緒に活動した。  
・参加者にとって生地をこねる作業は初めてであったため、試行錯誤しながら熱心に取り組む姿が見られた。  
・ピザはすべてうまく焼くことができ、参加者にとって大成功で大満足の活動となった。



## ⑧ 別れのつどい(まとめ・振り返り)

・アンケート用紙を使いまとめ・振り返りを行った。感想にはメンタルフレンドへの感謝の思いが表現されていた。  
・メンタルフレンドの感想発表では2日間の振り返りと参加者への思いが発表された。  
・参加者から次も参加したいという声も聞かれた。  
・次回(九重青少年の実施)のPRを行った。



## 8 事業評価

### ○参加者アンケート集計(対象:参加者8名)

#### ・プログラムについて

	内 容	楽しかった	少し楽しかった	あまり楽しなかった	楽しなかった
①	川の生き物観察	9	1	2	1
②	のんびりタイム	13	2	0	0
③	花火	11	3	1	0
④	手作りピザ作り	13	2	0	0

#### ・自分の事について

	内 容	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
①	積極的に取り組む事ができた	11	3	1	0
②	MF や友達と話ができた	12	3	0	0
③	キャンプを楽しむことができた	12	3	0	0
④	まわりの力をかりずに活動できた	6	8	1	1

### ○メンタルフレンドアンケート集計(対象:メンタルフレンド15名)

#### ・参加前と後での変化について

	内 容	4(変化大)	3	2	1(変化小)
意欲	活動に最後まで意欲的に取り組んでいた。	9	8	0	0
コミュニケーション	MF や仲間に積極的に取り組んでいた。	11	2	4	0
自己肯定感	活動に主体的に取り組んでいた。	12	3	2	0
自立	MF や大人の力を借りずに活動できた。	7	9	1	0

### ○IKR アンケート調査集計(対象:参加者10名)

#### 「生きる力」の変容(得点範囲:28~168点)

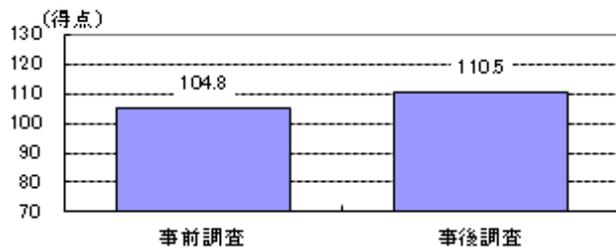


図1. 「生きる力」の平均値の推移

#### (事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 5.7ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかった

#### 「心理的社会的能力」の変容(得点範囲:14~84点)

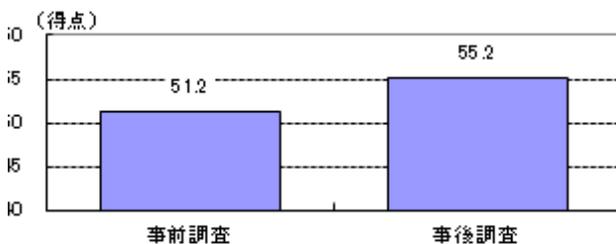


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

#### (事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 4.0ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

## 「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）

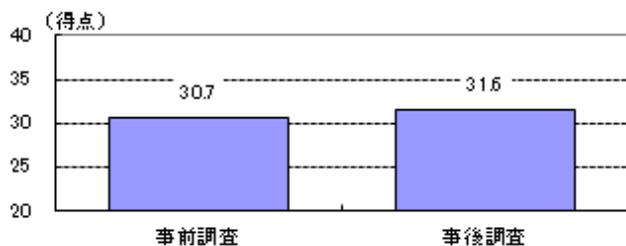


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

### （事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 0.9ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかった

## 「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）

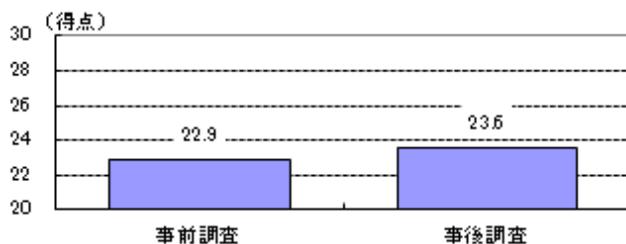


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

### （事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 0.7ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかった

### (1) 成果

- ・川の生き物観察を除くプログラムで、ほぼ全て参加者が楽しかったと回答しており、概ね満足度の高い活動となった。川の生き物観察は荒天の影響で予定していた活動が十分に実施できなかったため、満足度は下がったと考えられる。雨天時のプログラム充実に向けて課題が残った。
- ・前回に引き続き「のんびりタイム(自由選択活動)」での満足度が高い。不登校または不登校傾向にある子どもにとって、自己選択・自己決定を促す機会となり、参加者の横のつながりをつくる機会として重要度の高い活動である。
- ・メンタルフレンドによる参加前後の変容についてのアンケートによると、前回に引き続き自己肯定感に関する変容が大きかったことが分かる。手作りで1からピザをつくった経験が自信につながり、自己肯定感の向上につながったと考える。
- ・同年代の参加者の群れ遊びが別れのつどい後も続き、保護者がそのことの価値を理解し、付き合い姿が見られた。
- ・参加者数はここ数年で最も多い17名であった。このため参加者同士が互いに関わりながら活動する場面も多くみられた。

#### ＜IKR アンケートの分析＞

- ・生きる力の変容は平均 5.7pt向上(有意差なし)であったが、心理的社会的能力の変容については平均 4.0pt向上(有意差あり)している。これは、成功体験を積み重ねることができる活動(ピザ作り等)に主体的に取り組むことができたことやのんびりタイムで参加者同士のつながりができたためと考えられる。また、メンタルフレンドの子供の主体性を尊重し、自己決定を促すかわり方が大きく影響している。

### (2) 課題

- ・ピザのレシピは投影で示したが、より理解を深めるためには紙資料を作成して配布し、常時確認できるようにする必要があった。
- ・発達課題をスモールステップで解決するために、群れ遊びを活動に入れたり、各々の課題解決のための要求をしたりすることが必要である。
- ・参加者が多くなったためメンタルフレンドがマンツーマンで子供を担当することが難しかった。今後子供の安全管理の徹底が必要である。
- ・新規参加者を増進するために、こまめにメーリングリストを活用した周知や募集を行っているが、今後はトライアルデーやふれあい活動日についてもPRを強化し、青少年の家の魅力を発信し、新規参加者の増進を図っていく。